

青雲

11号 2009.3

発行人 / (社)島根県建設業協会出雲支部青年部会

「青雲」

題 字

前島根県知事 澄田信義氏



えにし

『縁』

出雲の神さまといえば大国主大神、“縁結びの神様”とありますがこの縁結びは、単に男女の仲を結ぶことだけでなく、人間が立派に成長するように、社会が明るく楽しいものであるように、すべてのものが幸福であるようにと、お互いの生成の為つながりが結ばれる縁もあるのではないかと思います。

我々が縁を大切に一致団結し、縁=絆の和を広げて行きながら青年部会らしい行動と自らの力で未来を切り開いて行こうではありませんか!!

優れた創造力と逞しき意志、勇気と燃える情熱を持って!!

(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会 広報委員会

青雲

11号

2009

CONTENTS

- 巻頭言／「維新」～動けば変わる～
 - (社)島根県建設業協会出雲支部青年部会長 山崎 章弘……………①②
- 平成 20 年度卒業生より一言「青年部会を振り返って」……………③④
 - (有)コウケン工業 石飛 洋三
 - (株)中筋組 龍澤 達也
- 平成 20 年度新入会員紹介……………⑤⑥
- 平成 20 年度事業報告
 - ・「経営研究技術研修会」
 - 経営研究委員会……………⑦～⑬
 - ・第 11 回『ふるさとまるごとクリーンアップ作戦』
 - (株)板倉重機 持田 充……………⑭
 - ・親睦事業結果報告
 - 大福工業(株) 勝部 和則……………⑮
- 建設業からの新分野進出
 - (株)倉橋工務店 倉橋 一喜……………⑯
- 平成 20 年度組織図……………⑰
- 編集後記 <広報委員長 / 間壁 和弘>



「維新」～動けば変わる～

(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会
部会長 山崎章弘

今、100年に1度とも言われている、未曾有の世界的経済不況の真ただ中に、我々は置かれています。その上に、国政の様々な体たらくが拍車に輪をかけ、国民生活自体そのものを危惧する状況にまで陥っています。建設業界においては、多少の緊急経済出動があるものの、これらも所詮単発であり、将来的な経営不安について拭いきれてないのが現状であると言えます。

小泉政権時代に、都市圏と地方との格差が生まれ、大企業と零細企業との格差が生まれました。我が日本の60、70年代の高度成長期を支え、ものづくりを一生懸命やってきた中小零細企業の存在がないがしろにされているのが、今の日本の国策であるように思われます。このままでは、建設業者においても、実際にもものがつukれないゼネコン等の大手業者ばかりが生き残れる仕組みになっていくように感じられます。昨年改正された経営事項審査では、元請工事金額が大きく評価され、総合評点において大手企業は上がり、零細企業は下がる大手優遇策とも思われる策略が如実に表されています。もっと零細企業が大事に扱われ、気持ちよく納税できる政策が出来るように期待を致します。

現状、島根県の建設工事発注量は、平成10年度をピークにこのわずか10年間で33% (67%減) にまで激減しました。出雲支部管内は、県内でもまだ恵まれた地域であり減少率は43% (57%減) に留まっています。工事発注量もそうですが、設計価格においても不適正とも思える価格調査により、特に人件費が大きくカットされています。

例えば、土木一般世話役の労務単価が40%減、普通作業員の労務単価が29%減となっております。これは、同じ積算条件で平成10年度に1億円だった工事価格が、今年度の設計単価で単純に積算し直すと約7千万円の工事価格にしかならないこととなります。この状況の中で、本当にこれが適正な人件費の価格なのでしょうか？民間の収入レベルから算定されたとされる公務員の収入と平等なのでしょうか？疑問に思います。

これらの状況下の中で、出雲支部の協会会員数も、150社から109社 (27%減) にまで減少しており、大変厳しい状況であることに間違えはありません。建設業者は、災害援助活動等をはじめとする緊急時の対応及び処理において、且つ、地域の基幹地場産業である

ことからの雇用対策においても、地域にとって必要不可欠な存在でなければならないはずです。このままの状態では会社数が更に更に減少し、地域にとって大きな損害を与え、且つ、支障を期すことになるのではないのでしょうか。また、建設業を目指す次世代の若者達から見て収入面でも安定した生活が送れる魅力ある職業でなければならないと思います。

そのためには、発注される工事を適正な価格で受注でき、その中から適正な利益を上げることが出来るような仕組み・システムを昔に立ち返って再構築することが重要であると考えます。併せてそこに、会員各社に勤務する社員の幸福があると思います。

この建設業協会出雲支部は、今年度創立 60 周年を迎えた歴史、伝統そして格式がある組織であります。ここであらためて先人のご労苦とご尽力を鑑み、様々なことを見つめ直す時期にきているようにも感じます。“和を以って貴しと為す” この基本精神をもう一度考え、協会員にとってメリットがある組織であり、社会貢献がしっかりと出来る、誇りある組織でなければならないと思います。

ここ近年、時代の変貌に伴い人間の考え方自体が昔に比べ大きく様変わりしてきた様にも思います。我々青年部会の大きな役割は、“温故知新” これから更に変わろうとする時代に対応できる新しい考えを身につけると共に、古の良き伝統を継承することであると思います。

まず人として、親睦・交流の中から友との信頼の絆を得て、義理と人情を繋ぐ。研修・奉仕の中から人間力形成や自己研鑽を習得していく。これらのことを実行することが大事ではないかと思えます。

今、建設業界はまさに変革の時を迎えています。歴史では時代が変わろうとする時、人は大きな壁に直面し、幾度となくそれを乗り越えて現在に至っています。そんな時必ずと言っていいほど、若い世代の勇気と行動が時代を変える推進力となっています。我々青年部会が、動けば変わる。叫べば変わる。そう信じて、今後の事業活動を行っていきたいと思います。既成概念にとらわれず、自らの責任ではっきりと物が言える青年部会であり、また、新しいことに挑戦できる高い志をもてる青年部会でありたいと考えております。

青年部会会員諸氏、一緒にこの変革の時代と付き合ってください。

ビジョンを描いて!!

勇気をもって!!



青年部会を振り返って

(有)コウケン工業 石飛洋三

思えば、私が青年部会に入会したのは、設立当初からなので、もう十数年経ったことになります。十年ひと昔と申しますが、青年とは面映ゆいくらいの風貌になってしまいました。

青年部会を振り返り、委員会や会合にあまり参加できなかったことで会員の皆様にご迷惑を多々お掛けしましたが、私の思い出といえば、やはり「国道まるごとクリーンアップ作戦」が印象に残ります。

ボランティア精神とは縁遠い私ではありましたが、このクリーンアップ作戦でその精神が培われたように思います。

最近夏場に行われますため、上からの日差しと、アスファルトからの照り返しで熱中症寸前までいったことがあったとか無かったとか。

また途中でわか雨にも見舞われ、パンツまでずぶ濡れになって行ったこともありました。

今振り返ると、とても良い経験が出来たと思います。

ゴミの種類も当初と随分変わったように思います。

当初国道端には粗大ゴミまでたくさん捨ててありました。それがこの活動が認知されるようになってから粗大ゴミは姿を消していきました。

また季節がら、ビールのアルミ缶をよく見かけましたが、これも目にすることがなくなると思います。

若い皆さんの活動で世の中が少しでも良くなって、世間に認められるよう、祈っております。

皆さん、長い間お世話になり、ありがとうございました。





青年部会を振り返って

(株)中筋組 龍澤達也

私が青年部会に入会したのは38歳、もう青年とは程遠い年齢での入会でした。

しかし、新参者の私を先輩方が快く迎えて下さり皆さんと一緒に多くの経験をさせていただきました。

ボランティア活動はもとより、研修旅行などたくさんの思い出も出来ました。

中でも、一昨年行った鹿児島旅行は記憶にも新しく、思い出しても苦笑。

ホテルも予定も決まっているのにそこへ行く交通手段、レンタカーがない。予約してない。

急遽レンタカーを手配。しかし、やってきたのは今時珍しいカーナビ無しのしかも大型車。

(たまたま、大型免許をもっていた山崎育男氏、花田昌彦氏がいたからよかったものの・・・)

さあ行こういざ知覧へ。

ほっとしたのもつかの間、なんと前のトラックの荷台から人参がゴロゴロ、ゴロゴロ。

ここは青年部会、見過ごすわけには行かず「ボランティアだぞ」誰かの掛け声でみんなで人参拾い。「俺やちゃんんでこげんえやつばっかだからあー。アッハッハ」自画自賛し、その後は気分良く全行程を廻ることが出来ました。ハチャメチャではありましたが、この無計画旅行は一番楽しい旅になりました。

また、昨年は私事で申し訳ないのですが、次女が「なぎなた」の全国選抜大会、インターハイで二冠をあげる快挙を成し遂げた年でもあり、大変良い年となりました。

(テレビ、新聞等で再々登場し、ご存知の方もいるかと思いますが、これがまた私似のかわいい娘で・・・自慢か!?) ジョーダンはここまでとし・・・

退会の年は、公私共にとても充実した年となりました。

入会してみなさんと共に汗を流し、騒ぎ、笑い、あっという間の7年間でした。皆さんと過ごした時間はとても有意義なものでした。

本当にありがとうございました。

青年部会がますますご発展なさいます事をお祈りしております。

最後に一言!!

ゴルフコンペをもっとやってほしかったなあああ(^□^)



平成20年度 新入会員



嘉戸 務 S42.12.15生
久文建設(株) (出雲市湖陵町) 取締役

新規会員として本年度からお世話になります、久文建設(株)の嘉戸と申します。この仕事に携わり早20年、厳しい状況下が続きますが、地域の活性、発展のため日々業務に就いております。この業界を取り巻く情勢は年々厳しいものとなってきていますが、地域の皆さんの生活向上のために欠かすことのできない仕事です。ものを造り上げる達成感は何物にも代え難く、それが地域の皆さんの役に立つと言うことは大変嬉しいことです。その誇りと新たな道筋をつける夢をもって今後も日々精進していきたいと思います。今までたくさんの方にご助言頂き年を重ねて参りました。

ご縁がありまして青年部会に入会させていただきましたので、この貴重な出会いを大切に、今後の成長の糧にさせていただきたいと思っております。

何かとご迷惑をおかけすることもあろうかとは思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



花田 泰久 S43.3.1生
(株)山本工務店 (出雲市平田町) 営業企画部課長補佐

今年度より青年部会に入会させていただきました。

青年部会の活動において、先輩方のご経験談などを聞かせていただけることを、とても楽しみにしており、これをきっかけに『自分磨き』が出来るようにしたいと思っています。また、仕事のみならず、ゴルフなど趣味の幅も広げたいと思っています。私が営業職になってもうすぐ4年になろうとしています。この間、建設業界を取り巻く状況は益々厳しいものになり、工事の受注も困難を極めてきました。そのような中でも、今日まで培って参りました経験と技術力を駆使して、この難局を乗り越え、さらなる発展を遂げるために、日々チャレンジを積み重ねていくつもりです。

何分にも教えていただくことばかりですが、折角いただいた『ご縁』を大切に積極的に活動しますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。



内藤 正和 S50.1.1生
(株)内藤組 (出雲市今市町) 取締役企画室長

岐阜県で10年間建設業界に携わり、平成19年秋に出雲へ帰ってきました。

出雲へ帰って1年が経ち、ようやく慣れてきましたが、建設業界を取り巻く環境は、これまで以上の厳しい状況に追い込まれています。

業界を取り巻く、新しい仕組みや制度・IT化が進み、自分自身も日々変化していく流れに柔軟に対応していかなければと思っています。

皆様方との出会いを大切に、「自ら率先して取り組む」という意識を持つ事や、会員間の交流を通じて、資質向上していきたいと思っています。

今後、ご迷惑をお掛けする事もあるかと思いますが、宜しくお願いいたします。



原 哲広 S53.2.5生
出雲土建(株) (出雲市知井宮町) 営業部

大学卒業後出雲土建(株)に入社し、営業として働きはじめてから7年が経ちました。

この度、縁有って青年部会に入会させていただきました。

今般の建設業を取り巻く状況はお世辞にも良いとは言えず、「大変な時期に入会したなあと」思いましたが、青年部会の一員として皆様と一緒にこの状況を打開する一端を担えればと思っております。青年部会の仕事もそうですが、まだまだ学ぶことばかりの若輩の身でございます。皆様にご迷惑をおかけする事もあるかと思っておりますが精一杯努めてまいります。

ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。



伊藤 正彦 S53.5.9生
山陰建設工業(株) (出雲市神西沖町) 営業部係長

建設業も厳しい時代になり、営業も今までのやり方では生き残りも難しい状況になる中、私も山陰建設工業に入社して8年が経ちました。この時こそ人との交流を深め、情報交換等を通してお互いに助け合っていければと思っています。人との交流を深めるというのは難しいと実感しておりますがその

反面、自分の財産になり自分自身を高め、成長させていける事だと考えています。

私自身もまだまだ交流が少なく、この度青年部会、会員交流委員会に入会させて頂く事になり、皆様との交流を大切にしていきたいと思っております。右も左も分からない私ですが精一杯お役に立てる様に頑張りますので、皆様の御指導・御鞭撻の程宜しくお願い致します。



三原 惇志 S58.11.15生
(株)三原組 (出雲市佐田町) 取締役

この度、鳥根県建設業協会出雲支部青年部会に新しく入会させて頂くこととなりました、三原惇志です。高校を卒業した後に地元である家業を手伝いたいと言う気持ちで入社し7年が過ぎました、今でもこの業界に入った戸惑いや不安な気持ちも多々ありますが、本会の目標に「建設業の経営者としての

経営技術習得、並びに人格教養と相互の信頼を深めると共に、会員の融和を図り建設業界の発展に寄与することを目的」とあります。

まだまだ分からないことだらけの私ですが、本会を通じ、少しでも目標達成の為になれたらとの思いで頑張りますので、皆様には多々ご迷惑をお掛けすることもあると思っておりますが、どうぞよろしく申し上げます。

協会に関するアンケート 調査結果報告

アンケート回答率 94社 / 109社 86%

実施日：平成20年10月10日

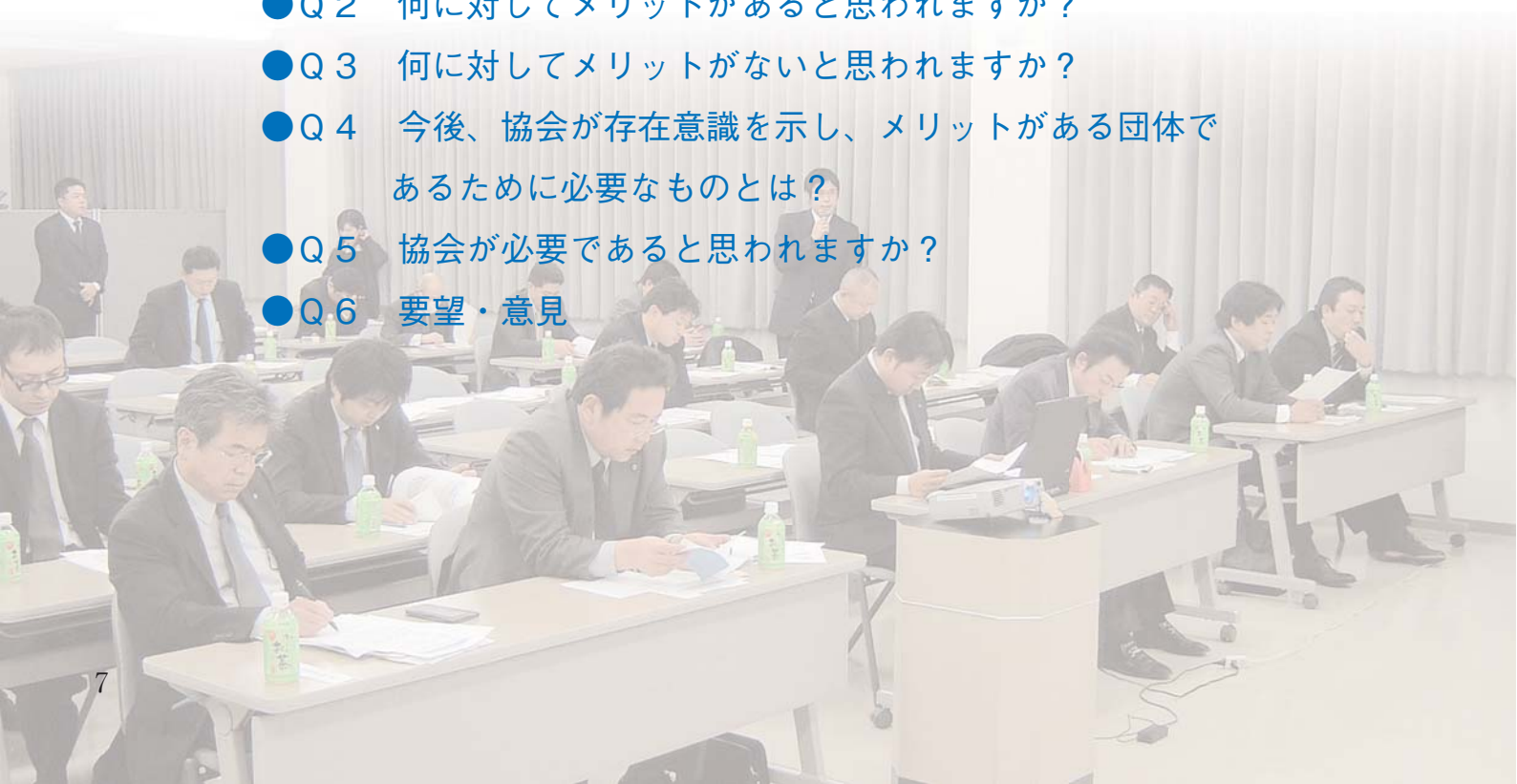
最近の建設業界の状況においては、公共工事の発注量の大幅な減少、低入札での受注の増加、入札制度の変革等多くの問題点を抱えているところであり、それらが引金の一因となり、各地で建設業協会の解散や組織崩壊が発生しているのが現状であります。

古いにしへの良き時代の建設業協会が我々の本来あるべき姿であり、そこには会員としての誇りと威厳があったはずです。

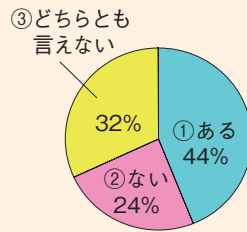
そこで、青年部会としては、今協会が置かれている現状を踏まえ、今後の建設業協会のあり方を模索するため、会員の皆様方の率直なご意見をお伺いし、協会に関するアンケート調査を実施しました。



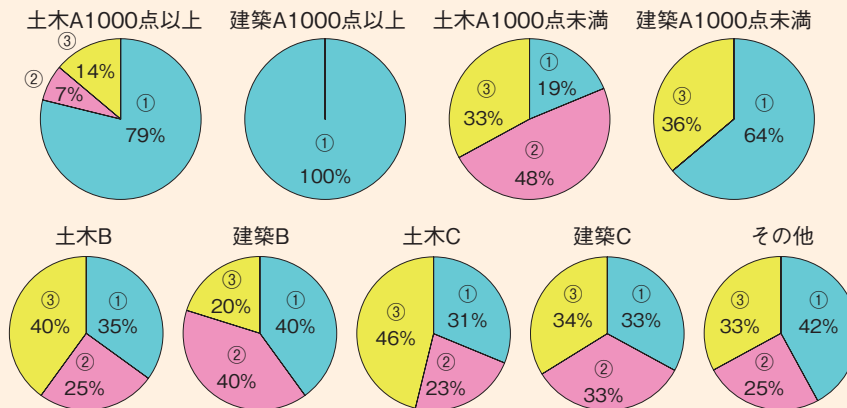
- Q1 現在、建設業協会にメリットがあると思われませんか？
- Q2 何に対してメリットがあると思われませんか？
- Q3 何に対してメリットがないと思われませんか？
- Q4 今後、協会が存在意識を示し、メリットがある団体であるために必要なものとは？
- Q5 協会が必要であると思われませんか？
- Q6 要望・意見



Q1 現在、建設業協会にメリットがあると思われますか？

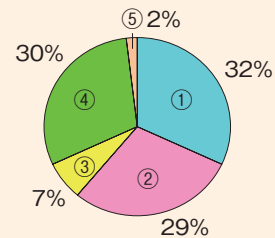


Q1 ランク別回答結果

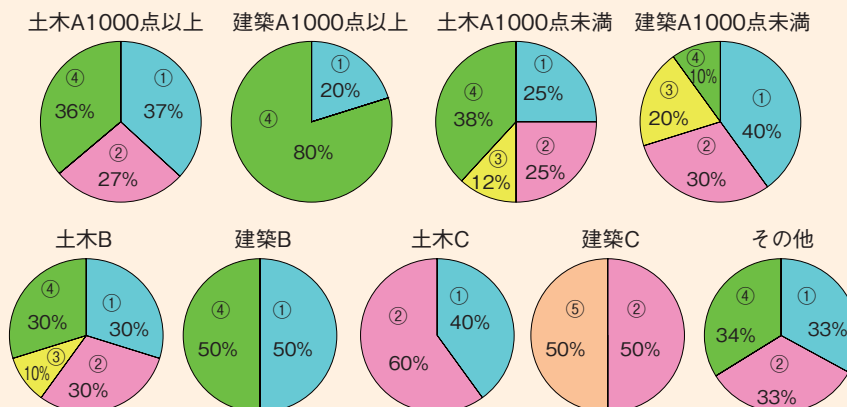


Q2 何に対してメリットがあると思われますか？ (Q1でメリットがあると回答した方)

- ①様々な新しい情報が素早く入手できて役立つ
- ②各種研修会や勉強会等により技術力の向上が見込める
- ③労働安全について研修会などを通して意識の高揚ができる
- ④会員相互の交流ができて有意義である
- ⑤その他

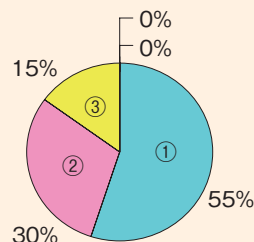


Q2 ランク別回答結果

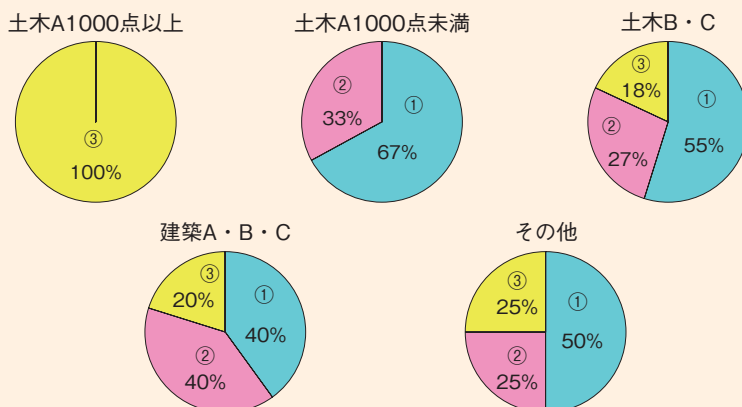


Q3 何に対してメリットがないと思われますか？ (Q1でメリットがないと回答した方)

- ①工事の受注につながらない
- ②協会としての特化性・権威が失われつつある
- ③協会費等の支出負担が大きい
- ④会員相互の交流ができていない
- ⑤その他

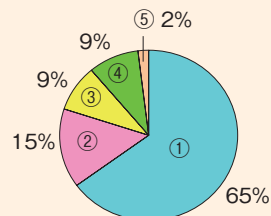


Q3 ランク別回答結果

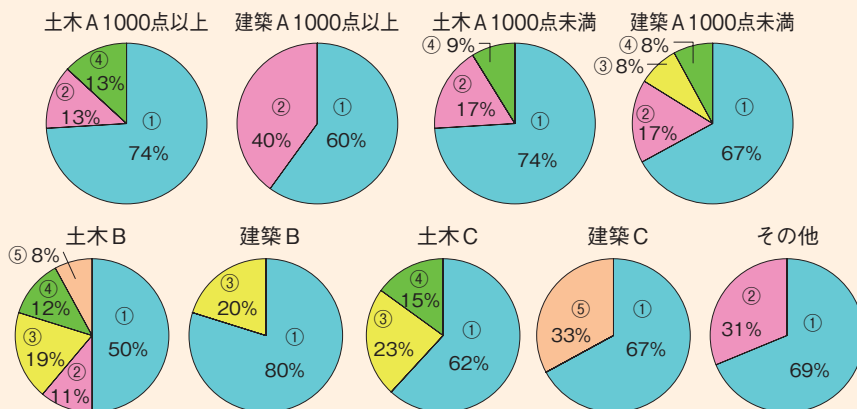


Q4 今後協会が存在意識を示し、メリットがある団体であるために必要なもの

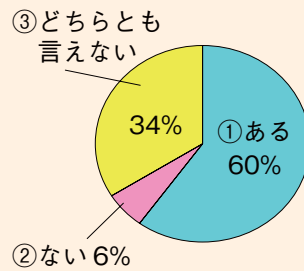
- ①協会員であることによって、入札参加及び受注が有利になるようなことを検討する
- ②協会員同士の交流・親睦を深め、共存共栄できるあり方を検討する
- ③会員各社が雇用する技術者・作業員等を有効的に活用するために、協会（組合・株式会社）として工事（委託）の共同受注または新分野への進出事業等を検討する
- ④協会費の負担を軽減する為のコスト削減を検討する
- ⑤その他



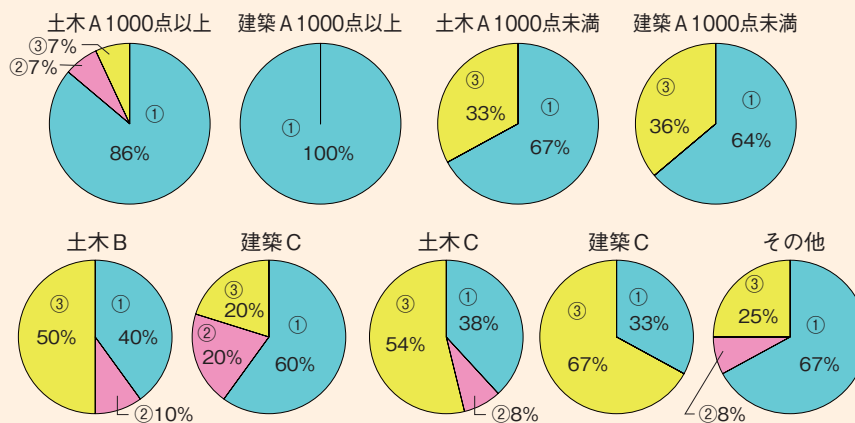
Q4 ランク別回答結果



Q5 協会が必要だと思われませんか？



Q5 ランク別回答結果



Q6 要望・意見

- ◎協会員として様々な地域貢献活動に参加している事を行政に評価をして頂き、地元管内業者に工事発注されるシステム作りの提言を行ってほしい。(災害援助活動、除雪作業、各種ボランティア活動等)
- ◎総合評価方式の入札制度は、大手優遇策になりかねないので、島根県にあった入札制度の見直しを提案すべき。
- ◎労務単価の引き上げを協会として陳情してほしい。
- ◎協会員同士の交流・親睦会、技術力向上に繋がる研修会、労働安全管理研修会等を広く参加できるように計画してほしい。
- ◎協会として、工事・委託等を共同受注できるようになると協会のメリットもますのでは？(除草業務委託、パトロール委託等)
- ◎協会員が共存できるように、下請工事については、なるべく協会員の業者を使うように配慮してほしい。
- ◎市民の皆様にも地域貢献活動や技術力向上の為の勉強会等の良いイメージをもってもらえるようなPRも大切ではないか。
- ◎協会運営費等の削減、会員の負担軽減を図ってほしい。(市建協と県建協出雲支部の合併等によるコスト削減等)

考 察

Q1 “協会にメリットがあるとおもわれるか” について

土木A（1,000点以下）、土木B・C、建築B・Cランクの会社にとっては、協会のメリットが薄れつつあるように思われる。



全てのランクにおいて、協会がメリットある団体になるよう、再度方策が必要である。

Q2 “協会にメリットがある” について

①情報の素早い入手、②研修会等による技術力の向上、④会員相互の交流についてメリットがあるという回答がほぼ同数で主流を占めた。



今後更に充実した研修事業や交流事業を実施・強化する。

Q3 “協会にメリットがない” について

回答者の過半数以上が、工事の受注につながらないと回答。（特に土木A級1,000点以下においては、67%を占めている。）



要望・意見の中にも多くの回答があったが、島根県にあった入札制度を提言すべきである。

Q4 “今後、協会がメリットある団体であるために” について

65%以上の協会員が、協会員であることによって工事受注が有利になるような方策を望んでいる。



要望・意見の中にも多くの回答があったが、島根県にあった入札制度を提言すべきである。

Q5 “協会が必要であるか” について

60%以上の協会員が、協会は必要であると回答。（どちらとも言えないを含めると、95%近くの支持となる。）



- ①協会費が高いという意見もあるが、費用対効果の考え方による価値感の違いではないか。
- ②協会員として協会にメリットがあると感じられる団体にならないといけない。
- ③何らかのコスト削減策は必要ではないか。

提 案

(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会は、協会員の意見を踏襲した結果、下記の2つの事項における、“島根県にあった新しい入札制度”の導入実施を提案致します。

提案1. 現行の簡易一般入札制度について

個々の簡易一般入札に際して、地域建設業者が下記の3つの事項において、最大限に評価して頂くための提案

- 1 企業及び配置技術者の工事实績並びに技術力の研鑽に関する評価
- 2 労働災害防止活動に関する評価
- 3 当該地域における雇用、災害援助活動、ボランティア活動等の社会貢献活動に関する評価

○低入札価格調査

(現行)

島根県が発注した工事で、平成○年度及び平成○年度に完成した低入札価格調査対象工事、工事成績評定点が65点以上であること。
ただし、完成した低入札価格対象工事がある場合は当該工事の工事成績評定点が70点以上であること。



過去○年間に低入札価格調査工事の実績が無いこと。に変更(品確法に基づく)

○企業資格及び配置技術者資格の追加要望項目

☆技術力

- ・継続教育(CPD及びCPDS等)の取得ユニットが過去5年間において○○ユニット以上取得していること。

☆労働災害防止活動

- ・会社の代表者が労働基準監督署が認定する労働安全管理講習を1年以内に受講していること。

☆社会貢献活動

- ・島根県と災害協定を締結していること。
- ・島根県が認定しているボランティア活動の認定団体であること。

○入札形式

事後審査型条件付簡易一般入札（資料、入札書を同時に提出）



技術資料確認型簡易一般入札（技術資料の適正を確認された業者のみ、入札書を提出）に変更。

提案 2. 総合評価入札制度について

現在、国交省が行っている総合評価方式による入札制度は、小規模零細企業が主流を占める島根県（地方）においては、下記の3つの事項により、風土にあわない制度であることの提案

- 1 大手企業の優遇策とも受け止められ、小規模零細企業の経営力を阻害することが懸念される。（零細企業は、いくら頑張っても安い金額でしか受注できない）
- 2 入札参加に対するコスト及び労務負担等の企業負担が増大する。
- 3 島根県らしい小規模零細企業の特異性が活かせる独特の評価基準の設定が必要。

経営研究技術研修会





『ふるさとまるごとクリーンアップ作戦』に参加して

(株)板倉重機 持田 充

毎年実施されておりますクリーンアップ作戦を、昨年は7月30日に実施いたしました。昨年までは、『国道まるごとクリーンアップ作戦』として(社)島根県建設業協会青年部会員で県下一斉に行っていましたが、今年からは各支部単位での実施となり、私も所属しております地域貢献委員会が中心となり、『ふるさとまるごとクリーンアップ作戦』として実施いたしました。昨年までは斐川町～出雲市の国道9号線沿いの清掃を行っていましたが、ゴミが比較的少なくなってきたとのことで、今年は大社～平田間の国道431号線の清掃を出雲県土整備事務所の皆さんにもご参加いただき実施いたしました。

出雲建設会館駐車場にて出陣式を行い、各班それぞれの担当区間へ移動して清掃活動を開始しました。中には道幅が狭く危険な箇所もありましたが、皆さん事故もなく無事に終えることができました。

清掃をしてみたの感想ですが、昨年と違うルートを清掃すると言うことで、ゴミが結構あるのではないかと考えていたのですが、想像していたよりも比較的少なかったように感じました。しかし、ドライバーのマナーが向上してきているとはいえ、実際にゴミを拾っていて、皆が利用する道路に捨てられたゴミには腹立たしくがっかりさせられました。ゴミの多くは、たばこの吸殻、コンビニ弁当の殻、空き缶です。空き缶の中にはビールの缶もありました。私も車を毎日運転しますが、車の中からは見えない部分が歩いてみてわかりました。

今回清掃を実施した国道431号線も、出雲大社・出雲歴史民族博物館・日御碕灯台・一畑薬師などの観光名所へ通ずる重要な「道」であり、利用者は多いと思います。観光を目的として来県された方々に、車中からの風情も良いと思ってもらえればと活動を通じて感じました。また、こうした地道な活動や、思いが、建設業界のイメージアップにつながってほしいと願っています。





親睦事業結果報告

大福工業(株) 勝部 和 則

スポーツを通じて体力・健康の増進を図ると共に、会員相互の親睦を深めることを目的に下記のスポーツ大会を開催しました。日頃の運動不足の解消にもなったのではないのでしょうか？

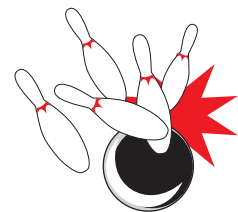
◎親睦野球大会

日 時 平成 20 年 9 月 5 日(金)
場 所 出雲ドーム
対 原商戦
結 果 原商 2 × 9 青年部会



◎親睦ゴルフ・ボーリング大会

日 時 平成 20 年 11 月 26 日(水)
場 所 島根ゴルフ倶楽部・出雲会館センターボール



ゴルフ成績

順位	氏 名	OUT	IN	GROSS	NET	備考
優勝	今岡 幹 晴	50	51	101	75.8	
2	山崎 章 弘	40	50	90	76.8	
3	山崎 育 男	44	40	84	76.8	BG

ボーリング成績

順位	氏 名	1G	2G	スコア計
優勝	加納 悟	157	159	316
2	間壁 和 弘	178	119	297
3	伊藤 正 彦	141	156	297





建設業からの新分野進出

～なぜ介護が求められているのか？～

(株)倉橋工務店 倉橋 一喜

当社は平成19年2月、介護施設「伊野本陣」を開設しました。

サービス内容は、主に認知症の方を対象としており、「グループホーム」「デイサービス」「小規模多機能型居宅介護」の3部門からなるサービスを展開しています。

なぜ、このような異業種に飛び込んだのか？それには理由があります。もちろん地域に貢献したい思いもありますが、介護業界は不況などの経済情勢の影響を直接受けにくいことと、業界自体が成長期にあるため、今後の発展が有望である点が挙げられます。

かつて介護の現場は家庭でした。それが今や核家族化、少子化が進み、家族が自宅で介護をするのが非常に困難な状況となってしまいました。

そして、超高齢化社会の到来です。現在、わが国の65歳以上の高齢者は5人に1人ですが20年後には3人に1人になるという推計が出ています。今後は老いた妻が夫の、夫が妻の介護をする、あるいは老いた子が親の介護をする「老々介護」の時代になりつつあります。

平成13年の介護保険法の施行により、高額な介護サービスが1割負担という低額で受けられるようになりました。国としても超高齢化社会に対する準備を始めたわけです。

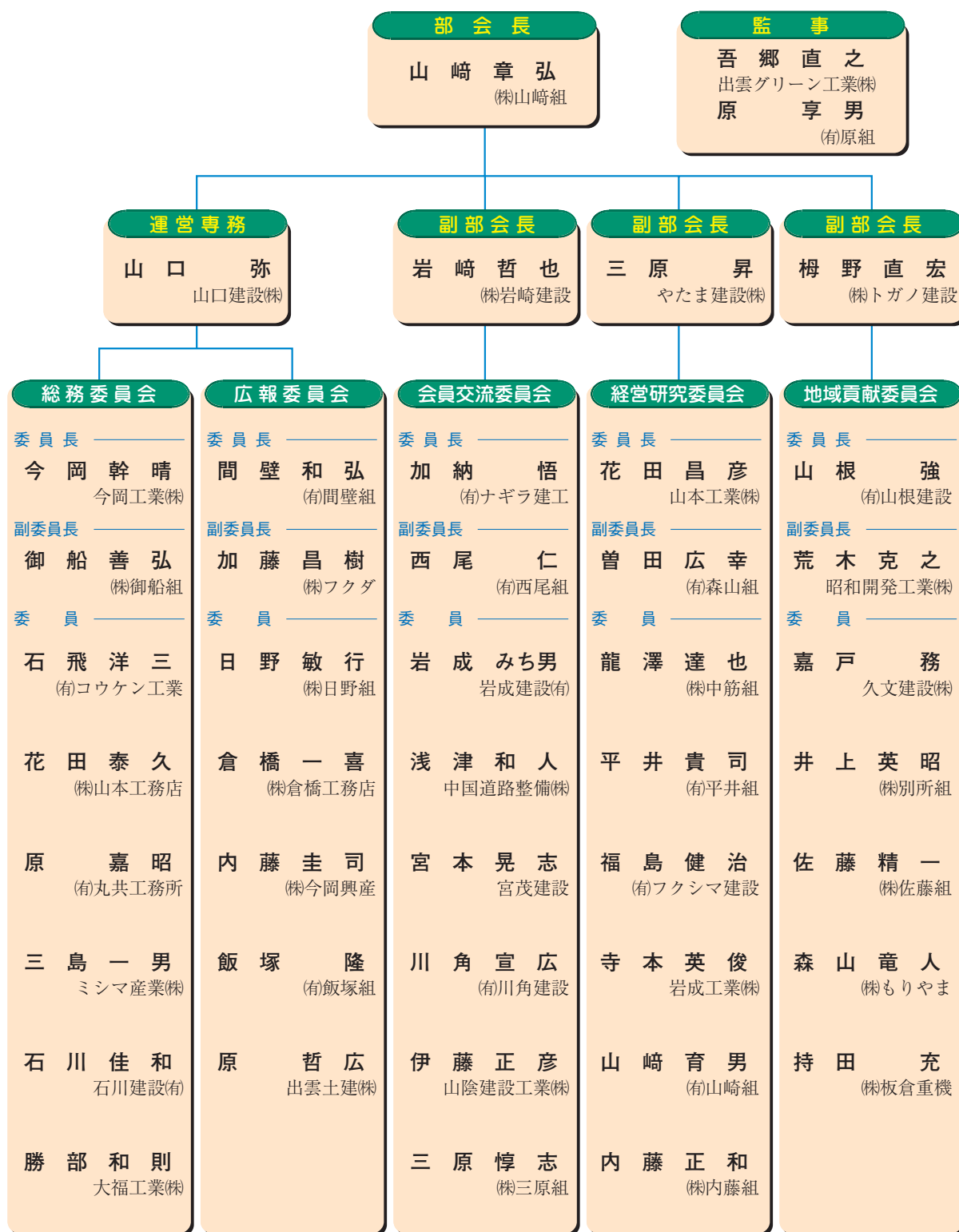
また認知症とされる患者数は、現在全国で200万人とされています。80代では4人に1人が認知症であり、その数は高齢者の増加に比例すると推測されています。

そして「看取り」の現場は病院から介護の場へと移りつつあり、今後は「人様の生涯をいかに安らかに全うしていただく事が出来るか」が介護事業者のテーマとなります。

21世紀の企業は単に利益を生むだけではなく、如何にそれを社会に還元出来るかを考えなければなりません。このような状況にある時、わが社が出来ることは何かを考えた時、介護事業は打ち込むべき価値の有る事業であると信じ参入した次第であります。



平成 20 年度 (社)島根県建設業協会出雲支部青年部会 組 織 図



(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会

歴代部会長

初代部会長	山本恭則	【平成9年度】
第2代部会長	今岡裕統	【平成10～13年度】
第3代部会長	別所幸雄	【平成14・15年度】
第4代部会長	広戸修	【平成16・17年度】
第5代部会長	久文秀典	【平成18・19年度】

編集後記

今回初めて、広報委員長を務めさせて頂くことになりました。改めて宜しくお願いします。広報委員会は、青年部会の各事業をホームページに載せたり、青雲の発行と気楽な気持ちで引き受けましたが、なんがなんが、やってみると大変で、経験させて頂いて初めて先輩方の苦勞が分かりました。広報委員会のみなさんに助けをもらいながら、1年間全うする事ができました。

表紙も5年ぶりに変更しようと提案があり、各会員さんから募集したりしメンバーで色々考え、今回の表紙となりました。

今回は、先輩方、新入会員の方々、各事業に加え、協会に関するアンケート結果、考察・“島根県にあった新しい入札制度”の導入実施の提案、新規事業等ボリュームある話題が掲載できました。来年度も、青年部会らしい親睦、研修等、楽しい話題を提供できればと思います。

最後になりますが、今回ご寄稿いただきました会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

広報委員長 間壁和弘

